

読者の声

面白い記事とは

●美唄歯科医師会会員
雨田 実



道歯会通信の創刊号は昭和23年12月15日、筒浦道歯会長の時に榊原一郎専務理事が、編集責任者で終戦後間もない物資不足の甚だしい頃で、紙もない何もない時代に、大変なご苦勞をされて発行にこぎつけたそうである。それ以来毎月1回、1度も休まないで続けることのできたのは、全道の会員に道歯会の方針を適確に流し得るものはこれしかない、という精神が現在の編集部（広報部）にまで一貫して流れていることは嬉しい限りであると思うものであります。しかるに道歯会通信が、広報部のご苦勞にもかかわらずあまり読まれていないのは、内容が面白味にかけるといふ声を耳にするので、面白い記事について拙文を綴らせていただきます。

業界紙は特ダネの記事や、いわゆるスッパ抜き記事によって読者の好奇心をそそり、面白く読ませることができ、それが一方的な記事であっても、そうすることによって自分の雑誌・新聞が売れるのであり、また裏面の収入もあるので、一面喰わんがためでもあるので、世間の信用があらうとなかろうと問題はないわけです。歯科医師会の会報となると、会として会員に対する責任があるものですから、必ずしも面白いことを書くわけにいきません。会としての方向、指導性も必要です。こういった記事は官報のようで面白くないし甚だ解りにくい、どうすれば会員の皆さんに読んでもらえるか、それは広報にたずさわる者がいつも苦しむことです。

道歯会通信は会の血管

会報は会の血管であり、動脈のように心臓から流れるものもあれば、静脈のように末端から中央に返るものもほしい。建設的な意見であれば、少々理事者と考え違ってものせることが面白いと思う。

これに対して必要に応じて理事者の回答があると、さらに効果は大であらうと思う。こんな会員の声をとり上げる広場があることは大変いいことであるが、いわゆる一言居士、書きますぞ族に占領されては会報としては大変に困る。ところが善良な一般の会員は、なかなか筆をとりたがらないものです。そこで地方の記者である、郡歯の担当理事に広く会員の声を聞き出してもらうことは大変に良い方法と思います。だいたい自分と関係のある記事は誰でも興味があるもの、自分で書いたものでなくても、自分がいったことが記事になれば親近感がわいてきます。またその近くの人オヤッと思って見るものでしょう。

会報を読むことは権利だ

私は一会員として考えたとき、会報を読むのは義務であると思います。だが義務というのは、とかく重苦しいものです。ですから会報を読むのは権利であると思っています。会報は会員でない人には送ってくれません。これを読むことによって私達は会の動きが分り、私達のよりどころがはっきりとし、大きなプラスがあるのです。読んで損することはないわけです。業界紙の中には、時には一方的記事であったり、中傷記事であったりして、物事を誤解し、私達は大きな損をすることもあります。今日の週刊雑誌や一部の新聞・雑誌の中には随分と社会を毒しているものもあるわけです。会報は面白くなくても薬にはなるわけです。

終りに

道歯会通信は会員にとって薬になるうえに、さらに味わってみて、さわやかな、愛読される会報であると思います。会員の諸先生がますます、ご愛読して下さることを祈念したいと思います。